

2021年度「大村知事と語る会」

1 日時

2021年12月23日（木曜日）午後1時から午後2時45分まで

2 場所

愛知県庁本庁舎 2階 講堂

3 テーマ

「SDGs未来都市」の推進～県民みんなで未来へつなぐ「環境首都あいち」～

4 意見交換者（五十音順、敬称略）

氏名	所属・職等
大西 康史	合同会社フォレストエネルギー新城 代表社員CEO
久留宮 小春	命をつなぐPROJECT学生実行委員会 2020年度学生実行委員長
清水 潤子	ハンター、山里カフェMui 店主
原田 さとみ	エシカル・ペネロープ株式会社 代表取締役
藤江 昌代	渥美半島☆自然感察ガイド 代表
渡会 一仁	株式会社渥美フーズ 代表取締役社長

【知事】 皆様こんにちは。愛知県知事の大村秀章です。

本日は、お忙しい中、また、年末ということで特に慌ただしい中にもかかわらず、この「知事と語る会」ということにご参加をいただき、誠にありがとうございます。

この会は、毎回、一つのテーマを決めまして、そのテーマに関連した分野の第一線で活躍している皆さんにお越しいただき、直接意見交換させていただくということで、2011年度からずっとやっておりまして、これでかれこれ10年、11年目ということでございます。

本日は、「『SDGs未来都市』の推進～県民みんなで未来へつなぐ『環境首都あいち』～」をテーマに開催させていただきます。

SDGsというのは、ご案内のようにSustainable Development Goalsということで、2015年の9月に国連サミットで採択をされた17の大きな目標、そして169のターゲットということでございまして。環境から貧困問題、そしてまたジェネラルギャップの解消から、様々に大きな幅広い目標、今の現代社会、そして国際社会が目指す、まさに今の現代社会が抱える課題をみんなで解決していこうという目標、ゴールだと考えておりまして、これを日本も採択をし、そして2019年に私ども愛知県も「SDGs未来都市」に内閣府から選定されているということでございまして。

そういう意味では、「環境首都あいち」を目指してさらにいろんな取組をさせていただいておりますが、今日はそうした面でまさに第一線かどうか、先頭を切って活躍していただいている皆様にお越しいただきました。

それぞれの皆様の活動の状況とか、そしてまたいろんな思い、目標、課題、こうしたらいんじゃないとか、いろんな思いを語っていただけたらありがたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

それでは、座らせていただきます。

冒頭、私からも、いろんな経緯も含めてご挨拶をさせていただきたいと思えます。

愛知県は、2019年7月に内閣府から「SDGs未来都市」ということで選定いただきました。これまで、自動運転・ロボットの社会実装の推進、環境に配慮した都市・交通政策、そして生物多様性の保全など、本当に幅広く取り組んできております。

今年10月にはSDGsに関する国際会議「持続可能で強靱^{きょうじん}な都市・交通に関する国際会議 Aichi 2021」、これは国土交通省と環境省と一緒にさせていただいた国際会議でございますが、常滑のAichi Sky Expoで開催し、オンラインも含めて約1,100人の方に出席していただきました。スマートシティ、そして持続可能な交通、水と災害といった、いろんな分野について意見交換をさせていただいたということでございます。

またあわせて、「SDGs AICHI EXPO 2021」というのも10月に開催し、企業、学校、NPOなど100を超える団体の皆さんがブースを出展して、約5,400人の方にご来場いただきました。

さらに、11月7日には、栄のナディアパークにおきまして、本日ご出席いただいている原田さとみさんもご出席いただきまして、エシカル消費の理念を広く普及するため、「エシカル×あいちフェスタ」を普及啓発イベントとして開催させていただき、そこで、愛知からエシカル消費を推進していくことを誓う「エシカルあいち宣言」を私どもからさせていただいたということでございます。ありがとうございました。

愛知としては、こうした様々なイベントを通じて県の取組を発信するとともに、県内全域にSDGsが普及・浸透するように取り組んでいるところでございます。

そして、今後の経済の発展、社会の発展に欠くことができないのが、カーボンニュートラルの取組だと考えます。愛知県は全国一の、日本一の産業県でありますので、どうしてもCO₂、温室効果ガスの排出量はトータルではずっと全国一ということでございますが、経済単位、GDP単位当たりの温室効果ガスの排出量は37位なんです。みんな結構頑張っているんですけども、いかんせん、分母がほんとと圧倒的に大きいので、どうしても掛け算すると増えてしまうと。何でもそうですが、県単位で比べると、人口の大きい小さいと産業の集積度とかありますのでね、我々のところは、愛知はどうしてもそういうことになります。だから逆に、むしろそういった全

国一の、日本一の産業県の愛知が脱炭素の取組をリードしていくことが必要だと考えておりまして、カーボンニュートラルの戦略会議などを設けて具体的な取組を進めているところでございます。

今後も、SDGsの達成に向けまして、経済、社会、環境の3つの側面の取組を全県挙げて進めたいと思っておりますし、県民、そして企業の皆さんにも具体的な行動を促していく、そうした普及啓発にも一層取り組んでいきたいと考えております。

そういう趣旨で、今日の語る会も、6人の方それぞれ全く異分野で活躍していただいている皆さんだと思いますので、それぞれの皆さんの活動の一端といいますかね、現状などもご披露いただいて、そしてまたこれをご覧いただいている多くの県民の皆さんに、ああそうなんだ、そういう活動があるんだとか、そういう活動に私も参加してみたいなとか、一緒にやりたいなとかいう人が一人でも増えるとありがたいなと思っております。

ということでありますので、限られた時間ではあります、主に環境分野で活躍いただいている皆様方から、それぞれの活動内容、成果、課題、今後の展望など、直接生の声をお聞かせいただければありがたいと思っておりますので、何とぞよろしくお願いを申し上げ、ご挨拶いたします。

ありがとうございます。

【知事】 それでは、順々にご自身の、それぞれの皆さんの日頃の活動内容、SDGsに関わる活動を始めたきっかけ、そして現状と課題、また、いろんな思うことなどをお話しいただけたらありがたいと思っております。

それでは、久留宮さんから時計回りで、最後、原田さんという形でぐるっと一回り、まずはご発言をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

まず最初に、久留宮さんからお願いいたします。

【久留宮】 ご紹介にあずかりました、命をつなぐPROJECT学生実行委員会から参りました久留宮小春と申します。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

現在、私は人間環境大学の4年生になりまして、こちらの大学に入学した当初からプロジェクトに所属し、現在まで活動を続けております。

ご案内もいただいたんですけども、昨年度、2020年度は学生実行委員長を務めさせていただきました。本日は、このプロジェクトに参加するきっかけから、現在プロジェクトがどういう活動を行っているか、現在抱えている課題についてお話しできたらなと思っております。よろしくお願いいたします。

私が活動に参加することになったきっかけとしましては、幼い頃から生き物が好きだったことから、大学でも環境問題について学びたいなと思っていたんですけども、その中での課題意識

として、一人で勉強しているだけでは実際の問題解決には至らないだろうなと思いながら入学を決めました。入学後に、入学式や講義の中でこの命をつなぐPROJECTに実際参加されている先輩方から活動の紹介をいただきまして、そのときに、学生だけではなく、異なる立場の方とともに活動ができるというご案内をいただきまして、自分の問題意識とすごくマッチしているなと思って所属を決め、現在まで活動を行っています。

実際に命をつなぐPROJECTがどういう活動を行っているのか、ご紹介させていただきたいと思います。

命をつなぐPROJECTのメインフィールドですけれども、愛知県知多半島臨海部にあります日本有数の工業地帯でして、こちらの場所は約半世紀前に海を埋め立てて造られた場所でございます。造成当初は、市街地と工場を隔てるための目隠しの森（グリーンベルト）として造られたものですが、緑地が大きくなるにつれて、市街地では宅地開発が進み、里山が消失してしまい、生き物の棲む^すところがなくなってしまったので、順番にグリーンベルトに生き物が移動してくるということがありました。

2010年に愛知で開催されましたCOP10をきっかけとしまして、そのグリーンベルトをもっと豊かな環境に整備して、地域の生態系ネットワークの形成に貢献したいということから、グリーンベルトを第二の里山にしたいという思いで、命をつなぐPROJECTが発足しました。

私が活動に参加するきっかけともなったんですけれども、この命をつなぐPROJECTは現在、12社の企業と、行政、専門家、NPO、学生といった様々な主体が一つの目標を掲げて活動を行っています。

命をつなぐPROJECTの活動は多岐にわたるんですけれども、まず、環境の整備として特徴的な活動を三大骨子として、3点お伝えしたいと思います。

まず1点が、水辺のビオトープの整備です。

こちらの活動は、水辺を整備することによって、水生昆虫、魚類、鳥類などの誘致を目標にしております。実際に整備する前から、工場の貯水槽など水辺自体はあったんですけれども、それぞれの距離が遠いなど、分断された状況でした。そこで、新たに水辺を増やすことによって、それぞれの水辺の間で生き物が移動できるようになるということで、生態系ネットワークの形成に貢献をしております。

2つ目が、アニマルパスウェイの調査です。

もともとグリーンベルトは各企業ごと、工場ごとの敷地の境界線がフェンスで仕切られておりますので、哺乳類とかの移動が少し難しいという課題がありました。そこで私たちは、そのフェンスの機能を失うことなく動物たちが移動できるようにということで、フェンスの下に穴を掘る、または土管を通すなどして生き物の抜け道を作りました。(スライドの)右下にある写真は、定点

カメラを仕掛けて実際に撮影された写真になります。キツネやタヌキの利用も確認されています。

3つ目、生き物の棲み家づくりです。

こちらは様々な生き物の誘致を目的としていますが、左下の写真のように鳥の巣箱の設置をしたり、また、右下にありますのは木の枝を組んだものですがけれども、エコスタックと呼ばれる生き物が棲める棲み家を作って、場合によっては石を積み上げたりするんですけれども、爬虫類ほちゅうるいであつたり昆虫の誘致を目的として行っております。

三大骨子としては以上ですが、他にも、外来種の駆除や在来種の育成、動植物のモニタリングを通して生態系の向上に努めています。

また、私たちの活動について及び生物多様性についていろんな方に知っていただきたいということで、フォーラムやイベントへの出展も行っております。そしてまた、学生が主体で企画・運営を行っておりますイベントがありまして、こちらは地域の方に工場の緑地を見ていただくということでバスツアーを開催したり、楽しく生物多様性について学んでいただきたいということから、お祭りのようなイベントの企画・運営も行っております。

啓発活動の一環として、フリーペーパーを年に一回発刊させていただいております。実際に取材であつたり原稿の執筆も学生と一緒にやっているのも、自身の成長にもつながっているかなと思います。

これまで、COP10を契機にやらせていただいて、数々の受賞をさせていただきました。昨年は、令和2年度緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰や、あいち・なごや生物多様性ベストプラクティスにも選定させていただきました。本年度も新たに、2021年度持続可能な社会づくり活動表彰として環境大臣賞を受賞させていただいております。

活動の概要としては以上になります。

本日の語る会のテーマとして、「SDGs未来都市の推進」ということでしたので、私たちの活動でSDGsに貢献できているのではないかなという点を整理させていただきました。

まずメインとしては、ゴール15の「陸の豊かさを守ろう」というところは、企業緑地における生物多様性の向上に貢献しているという点から貢献させていただいているかなと思います。

また、ゴール11「住み続けられるまちづくりを」、ゴール12「つくる責任 つかう責任」という面では、連携企業にとってはCSRの活動の一環とも捉えられ、そういう面では貢献させていただいているかなと思っております。

最後、ゴール17「パートナーシップで目標を達成しよう」というところは、命をつなぐPROJECTの特徴でもある、様々な主体とともに活動しているという点から貢献させていただいているかなと思います。

直接的にSDGsに貢献しているわけではないですがけれども、その他の面で、地域への貢献として、

イベントの企画・運営を行うことで地域のつながりの創出であったり、学校以外での教育の機会創出にもつながっているかなと考えております。

最後に、現在抱える課題として、やはりコロナウイルスの影響を大きく受けたと思っております。コロナ以前は対面やフィールドでの活動がメインで、それこそ生物のモニタリングであったり、イベントの企画・運営、他のイベントへの出展というところで対面のものが多かったです。また、学生のメンバー募集も行っているんですけども、入学式に合わせて先ほどご説明させていただいたフリーペーパーを配布したりしながら、直接、どういう活動を行っているという説明をさせていただいていたんですけども、コロナ禍になりますと、緊急事態宣言であったりというときには、やはり企業内の立入りが難しいということで、モニタリングができないときもありまして、時間軸的にも物理的にも少し断続的になってしまったり、また、イベント自体が中止ということで啓発の機会も失われてしまったかなと思います。大学のオンライン授業化が進んだときは、新入生の勧誘もオンライン化になりまして、SNSなども活用しましたが、メンバーの募集というところでつまずいたところが多かったかなと思います。

以上のことを受けて、私が肌身として感じたこととしましては、やはり企業にとって生物多様性の問題を最優先の問題にすることは難しいのかなというところを感じました。また、学生メンバーとしては、勧誘活動の停滞によるメンバーの減少であったり、イベントの中止による、入ってくれたメンバーですら経験がなかなかできないというところで、今後の継続性に少し不安点を抱えています。

以上で、説明と発表を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

【知事】 ありがとうございます。

命をつなぐPROJECTということで、知多半島を舞台にして、大分前からというか、10年ぐらい、最初からいろいろお話をお聞かせいただく機会をいただきましてありがとうございます。

また後ほどご意見を頂ければと思いますので、よろしく願いいたします。

続きまして、渡会一仁さん、お願いいたします。

【渡会】 本日はよろしくお願い致します。渥美フーズの渡会と申します。

弊社は、渥美半島先端の田原市福江町という町に本社があります。

経営理念として、お手元に資料も配らせていただいたんですけども、「地域の食と健康を育む『五方良し』の経営」ということを一番の理念としておりまして、五方良しの心でエコサークルな社会を目指してまいります。このような経営理念を約20年前から掲げておりまして、農薬や食品添加物、遺伝子組換え等、そういった問題に取り組みながら、食の安心・安全、そしてお客様、生活者へ健康を届けようとこれまでやってまいりました。

例えば、店内の掃除に使う石鹼^{せっけん}ですね。弊社では合成洗剤は一切使わずに、石鹼を使って店内の清掃をしております。私もよく出張があつてあちこち行くんですけども、ホテルでも、石鹼を使っているホテルってほとんどなかったりするんで、そういった身近なところからもみんなのできることがあるのかなと思っております。あと、割り箸も、今は中国産の割り箸が98%ぐらいのシェアがあるんですけども、我々のお店では年間50万膳ほど、国産のスギやヒノキの間伐材を使った割り箸を使っております。

食品業界に携わる我々にできることとしてそういったことをしている会社で、ただいまスーパーが6店舗とレストランが1店舗、田原市、豊橋市、豊川市、浜松市に展開しております。

昨年、愛知環境賞をいただきまして、ありがとうございます。

ゼロ・ウェイストショッピングということで、ごみを出さないお買い物ができるお店をしております。

我々、お昼ご飯を食べても、すぐに大量のプラごみが出てしましますが、そういった問題をクリアしようということで、店内に量り売りをたくさん導入しまして、量り売りの専用コーナーや、あと、お惣菜^{そうざい}も量り売りで買えるお店になっています。プレート、陶器のお皿をもらって、店内を回っておかずを3種類選んで、おむすびを選んで、スープを選んで、それで店内でご飯が食べられる。そうすると一切プラごみが出ずに食事ができる、そんなお店を作っています。

今、社会ではマイバッグというのがほとんど定着して、うちでも、80%のお客様は自宅から袋を持ってお買い物に来られます。今後の取組としては、マイボトルとかマイプレート、家から容器を持ってお買い物に来ていただく、そんな買い物の仕方でないとな逆にごみがなくなる。家から容器を持って買い物に来ればごみは一切出ませんので、そういった取組をこれまでしてきました。

最近、エコサークルという概念を社内に設けております。お手元の「集まれ！エコサーキュラー」という企画を全店で展開しているんですが、これは古くて新しい、容器の貸し出しシステムです。こちらにあるような容器をお店では100円で貸し出しまして、返していただくと100円返金するというシステムになっています。

お店の写真がスライドに上がっていますが、例えばベビーリーフとかミニトマトとかいったものもこういった容器に詰めて、実際、中身の商品が150円だったとしても、容器代として100円お預りしてお客様に販売して、お客様が自宅から容器を洗ってお持ちいただくと100円お返しするという仕組みです。

意外とですね、やってみて思ったのは、適した商品と適していない商品があります。今写真にあるようなベビーリーフって、中身よりも容器のほうが重かったりするんです。次のスライドで、渥美半島の牛乳を使ったプリンを販売しておりますが、左側の普通のプラカップに入った商品と

右側のデポジット容器に入ったプリンがありまして、両方、中身は150円です。デポジット容器を
買うと100円レジで追加されますので250円支払うことにはなるんですけども、弊社ではデポジ
ットの商品が徐々に売れるようになってきています。こういった取組は、今は弊社だけの取組で
すけれども、本当は地域で共通してこういった容器を使えるようになると、もっとごみが出ない
社会になるのかなと。

右側にある写真は、お砂糖のグラニュー糖と粗製糖ですね。こちらも普通に買いますとパッケ
ージのごみが出るんですけども、お店で詰めたのを販売していきまして、結構少ない量から買え
るので、フードロスの削減にもなるということで、こういった取組を今いろいろと試しています。

日本人にとってはとっってもなじみのあるシステムなので、これが広がるといいなと思っていま
す。

あと、エコサークルとしまして、お店からどうしても売れ残った残飯が出るので、それを豚の
ご飯にしています。お米と残飯でパエリアのように炊いて、それを豚に与えて育てまして。こち
らのギフトカタログの6ページに、福豚という商品があるんですけども、お店から出る残飯で育
てた豚を使って小籠包^{しょうろんぼう}や餃子^{ぎょうざ}を作ってお客様にまた循環する、そういったこともしています。

最近では生ごみの堆肥化もしています。今年から農場を持つことになりまして、使っていない
牛舎に生ごみを積んで堆肥化しています。それを畑に戻していきたいと考えています。

渥美フーズの夢としましては、渥美半島をエコ・ガーデンシティにしたいなというのがありま
す。渥美半島は山もあって海もあって、すごく自然豊かなところなんです。我々渥美フーズのビジョ
ンとしては、2035年の渥美半島は山や海のおいしいものが溢^{あふ}れるオーガニック半島になっていて、
食や自然での遊びの達人やエコサーキュラーが集まっています。食やエネルギーを循環させ、エ
コツーリズムで長期滞在できる、地球にやさしいオアシスを目指します。これが会社の一番のこ
れからのビジョンとして今取り組んでいるところです。

今後、大村知事にもお願いというか。田原市もエコ・ガーデンシティを掲げておりまして、太
陽光や風力発電は推進していますが、太陽熱であったり、家畜のバイオマスや小型の風力や波力・
潮力発電、そういったもっともっと使えるエネルギーがありますので、その辺を応援していただ
けるとありがたいなと。

また、渥美半島は、温暖で本当にすごく住みやすい場所なので、今後、人生の最後を渥美半島
で暮らしてみたいなと思えるような渥美半島にしたいと思っています。本当においしいものが集
まって、自然が豊かで、遊びもたくさんできる、そんなオアシスのような渥美半島を目指してま
いります。

その中で、イタリアがスローフードとかスローライフということで先進国だと言われていま
すけれども、今後大事なものは、やはり子供たちへの食の啓蒙^{けいもう}といえますか。今は学校でも、環境教

育でSDGs絡みの教育を子供たちは受けていて、今までの我々の意識よりも随分高い環境に対する意識を子供たちは持っていると思いますけれども、食の本当のおいしさとはとか、オーガニックな暮らし、循環する暮らし、そういったスローなライフスタイル、渥美半島でそんな食の学校のようなものができたらいいなと思っております。

いろいろ夢がいっぱいあってやり切れないですけれども、愛知県、そして大村知事のご協力でこれからも渥美半島を盛り上げてまいりたいと思いますので、どうぞこれからもよろしく願いいたします。

ありがとうございます。

【知事】 ありがとうございます。

最初の久留宮さんが知多半島で、次の渡会さんが渥美半島ということでございまして。愛知県も自然豊かなところがたくさんあるということで、またこれからもぜひ頑張ってくださいと思います。

また後ほどご発言いただきますので、よろしく願いいたします。

3番目といたしまして、ハンターで、カフェを経営されておられます清水潤子さん、お願いいたします。

【清水】 皆さん、改めましてこんにちは。山里カフェMui店主であり、ハンターである清水潤子と申します。よろしく願いいたします。

7年前、刈谷市に住んでいたときに、お米作り体験がきっかけで豊田市の足助地区に来ました。そのとき地主のおじいさんにイノシシの被害のことをすごく言われ、他人事だったんですけれども、実際に何か月か通ううちに、よそ者というか、町の人間にイノシシの被害を、そして捕ってくれと頼まなければいけないほど社会問題なんだなと感じまして、猟師になりました。

愛知県の鳥獣害被害による農作物被害金額ですね、知事はご存知だと思いますけれども、約4億5,000万円もあります。私の住む豊田市では1億2,000万円。この1億2,000万円、4億5,000万円のうちに、鹿やカモシカによる森林被害、9haの金額は入っておりませんので、もっと甚大なものかと思っております。

(スライドの) これは私の家の前の田んぼです。イノシシの被害が多いので、田んぼを柵で囲まなければいけないんですね。イノシシや鹿が入らないようにしているんですけれども、実はイノシシに有効なのが1.5m、シカは3mの柵が必要と言われております。ただ、農業に従事している方は高齢者が多く、この柵を立てるのが体力的に限界の状態になっております。

柵があっても、田植え後に鹿が入り、苗を食べてしまった状態です。田んぼの周りを柵で囲ってもイノシシが入ってしまい、収穫前のたわわに実った稲の中を縦横無尽に走り回ってしまいます。この亀裂は、イノシシが走った後になります。走ったことによって、この田んぼのお米はイ

ノシシの臭いがついてしまって、もう売ることができない。廃棄処分になってしまうんです。

こちらは田原市になるんですが、ヌートリアに食害されたキャベツ畑になります。近くの小川からヌートリアが上がってきてキャベツを食べてしまうんですね。いくら手塩にかけて野菜を育てても、獣害によりだめにされてしまうことで、愛知県の大切な産業である農業の従事者は続ける気力がなくなってしまう状態になっています。

豊田市の農政課のアンケートで、獣害がなければ田畑をやりたいかという質問があるんですが、そちらには、100%の方が獣害がなければ田畑をやりたいと答えており、皆さん獣害に困っていることがわかっております。

有害鳥獣駆除で捕獲されたイノシシや鹿の全国平均で、9割が廃棄されています。鹿では55万頭廃棄されている状態です。これは豚熱が流行る前のデータで、今はイノシシがもっと多く廃棄されています。小動物や鳥に至ってはほぼ廃棄。畜産の自給率が、牛肉で35%、豚肉で49%、しかも、国産飼料での自給率は、牛肉9%、豚肉6%と少ない中、肉として食べられるものが捨てられているというのはすごくもったいないことだと思っています。

そこで、廃棄率を減らす取組として、2017年12月に豊田市足助地区にジビエが食べられる山里カフェMuiをオープンさせ、ジビエ料理を提供させていただいております。

愛知県内には獣肉処理施設が少なく、現在も9か所です。今、豚熱の影響で休業されているところもあります。捕獲から1時間以内に搬入の決まりがあるので、運び込むのが難しいです。見ていただいでわかるように、ほぼ山間地に獣肉処理施設があります。山間地で捕獲しても、山から運び出して獣肉解体処理施設へ運ぶまでに1時間を超えてしまうと予測されると、もうそこで処分を決めるしかないという現状があります。ならば、自分が運びたいときに運べるようにと、クラウドファンディングを利用して、2018年12月に獣肉処理施設を作りました。これで、保健所の食肉処理業と食肉販売業の許可をいただき、お客様に自分で捕獲したジビエの提供と販売ができるようになりました。

障害者の収入になるように、捕獲した鹿肉を、豊田市障がい者総合支援センター「けやきワークス」さんでペット用の鹿肉ジャーキーにして商品化しております。皆様のお手元にある鹿肉ジャーキーがその商品となっております。ペット用で味がついていないだけで、食肉処理施設で処理した鹿肉を使っておりますので、皆さんでも食べていただくことができる商品です。

狩猟や駆除を行うことで、食糧確保や獣害被害削減で持続的な農業を促進できると考えております。平成24年度から県独自事業として有害獣類捕獲対策事業を開始、翌年度には国庫交付金事業に引き続いて捕獲経費をご支援いただいております。令和元年度からは、豚熱まん延防止のためにイノシシ捕獲経費を県費で上乗せしていただいております。持続可能な愛知県や中山間地域の農業ができると考えておりますので、今後とも持続的な支援をお願いいたします。

(スライドの) こちらは、くくり^{わな}にかかったイノシシです。丸の中に入っているのがくくり罠にかかっているイノシシで、こちらは渥美半島の田原の大山で捕まえたものになります。推定90kg。大きいイノシシほど暴れることが多くて、銃で仕留めることが多いんですが、つい最近、豊田市では、これぐらいの大きさのイノシシがくくり罠にかかり、イノシシがワイヤーから足を切って逃げ出し、そばにいた罠猟師さんに馬乗りになり足や首にかみつキ、ドクターヘリで運ばれるという悲痛な事故が起きました。命に別条はないものの、山間地には銃を持った猟師が少なく、罠を設置している方は、農業をされている自衛の方がほとんどなんですね。自分の田畑を守る自衛の方が、こういうイノシシがかかったときにどうするかといたら、^{でんき}電気銃というもので仕留めるしかないんです。とても危険な行為なんですね。でも、そこで銃を持った方が動けるかといたら、動けない状況が多いのが現状です。

ちなみに、足助地区では、自衛のために罠をやられている方が60名、銃を所持しているのがたった9名です。愛知県では毎年500名の方が狩猟免許を取られています。実は愛知県で狩猟登録をされている方は、去年ですが1,505件しかいないんです。こちら、罠と銃を併願されている方もいらっしゃいますので、実際の人数とすると1,500人を切っている数字。とても少ないんですね。現在活躍されている猟師の半数以上が60代以上の高齢となっております。独自で猟師の育成を行っておりますが、愛知県としても、安全で持続可能な駆除と、狩猟に向けての猟師の育成にご支援いただきたいと思います。

ただ、ジビエを普及すれば廃棄率が減るわけではありません。搬入できる解体処理施設がなければ廃棄率は減らず、ジビエにもならないんです。愛知県の大事な産業である農業を持続させるため、山の豊かさを守るため、ジビエが流通できる仕組みや猟師の育成など考えていただけますとありがたいです。

どうもありがとうございました。

【知事】 ありがとうございます。

自ら狩猟免許を取っていただいて、ハンターとして、そしてまた山里カフェでジビエ料理を提供していただいて、心から感謝申し上げます。

ただ、今イノシシは豚熱でどうされて。野生のイノシシは難しいんですけど。

【清水】 そうです。国の方から指導がありまして、解体処理施設でもある程度の設備を整えたものであればイノシシが扱えるとなっておりますが、愛知県内9個の解体施設の中に、その投資ができるのは1か所のみとなっております。

【知事】 なるほど。

あれから愛知県内では豚熱も出ていないのでやれやれということですが、野生イノシシの中では陽性というのがまだ見つかっていますので、そこら辺はやっぱり我々もしっかり、とにかく豚

熱をなくせるようにしっかりやっていきたいと思います。

また引き続き、ジビエも含めてよろしくお願いいたします。

また後ほどご発言をいただきたいと思います。

続きまして、4人目として藤江昌代さん、よろしくお願いいたします。

【藤江】 皆さんこんにちは。初めまして。渥美半島☆自然感察ガイドの藤江と申します。よろしくお願いいたします。

私は、渥美半島の自然の魅力を伝えようと、渥美半島でネイチャーガイドをしています。どんなことをしているのかというと、五感で楽しむ自然観察として、屋久島を感じる渥美半島の森歩きをしています。ただ森の中を歩くだけではなく、視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚の五感を使って自然を体感し、途中で出会う生き物や植物たちを紹介しながら、ゆっくりのんびり歩いていきます。また、森の中でコーヒータイムもあり、心身ともにリフレッシュしていただいています。

言葉の説明だけではわかりづらいかと思いますので、私が渥美半島の自然を案内している様子を動画でご覧ください。

[動画]

ご覧いただき、ありがとうございます。

SDGsという言葉が知れ渡るようになり、現在では、ネイチャーガイドをしていることがSDGsにつながっていると感じております。

ありがたいことに、今私がこの場所にいるのは、2002年に初めての一人旅で行った世界自然遺産の屋久島です。全てはそこから始まりました。

その年に、屋久島ではなく、沖縄の宮古島に9か月住みました。そこで私は自然が好きなんだということに気づき、自然に関わる仕事に就きたいと思い、渥美半島に戻りいろいろ調べて見つけたのがインタープリターです。ここでいうインタープリターとは、人と自然を結びつける役割を果たす人、自然と人間の通訳者、解説者のことです。私になりたいのはこれだと確信しました。

初めは、ガイドの研修生として屋久島で働くという手もありましたが、私は、勉強がしたい、自然の基礎をちゃんと学びたい、知りたいと思い、東京にある自然環境系の専門学校に入学しました。主にフィールドワークが中心の専門学校でした。私の場合ですが、夏休みは北海道の知床岬でアメリカオニアザミの除去作業でダニまみれになり、群馬県上信越高原国立公園の万座地区ではレンジャーの仕事を補佐するサブレンジャーを体験しました。そして、卒業と同時に世界自然遺産の屋久島に移住しました。ある日、膝を痛めてしまい、渋々渥美半島へ帰ってくるようになります。帰ってきたことで、私の中にある自然に対する思い、原点は、生まれ育った渥美半島だと気づきました。

そもそも私が渥美半島でネイチャーガイドを立ち上げるきっかけになったのは、屋久島を感じ

る渥美半島の森を見つけたからです。見つけた瞬間、「何っ、ここ屋久島じゃん」と思わず声が出てしまいました。渥美半島でネイチャーガイドをするつもりで屋久島から帰ってきたわけではなかったのですが、一度ふるさとを出て、改めて渥美半島の自然の素晴らしさ、魅力に気づき、これは地元の方たちをはじめ、みんなに伝えにゃいかんと思い、勝手に使命感を抱きスタートしました。

自然豊かな渥美半島は、北は三河湾、南は太平洋・遠州灘、西は伊勢湾と、三方を海に囲まれているため海のイメージが強いですが、森も魅力的なのです。

(スライドの) これは、私がガイドを立ち上げた当初から考えていること、思っていることです。地元の方たちが当たり前に見ている渥美半島の自然は素晴らしいということを知ってもらいたい、自慢や誇りに思ってもらいたい、当たり前に見ている自然は当たり前ではないということに気づいてもらう意識改革です。そして、後世に渥美半島の自然を残すという思いを込めてガイドをしています。

ちなみに、コース名が田原の屋久島とありましたが、屋久島みたいだから来てと言っているわけではありません。ただのきっかけにすぎません。私が伝えたいのは、足元の宇宙です。

これはカフェをされている方とコラボをしました。お弁当やおにぎりの概念を覆すべく、非日常を体感するというこで、ケータリングパーティーという形で森の中で食事をしました。今後は、異業種の方たちとのコラボレーションを強化し、様々な形で自然に触れる機会を作るきっかけづくりをしていく考えです。

いずれ私たちは自然に還ります。地球環境のために何ができるのかを問われる時代に既に入っています。企業もそうですが、各個人が行動する時代が来ています。今私ができることは、ネイチャーガイドを通して渥美半島の自然の魅力伝えること、そして足元の宇宙を伝えることです。つまり、渥美半島の自然を大切にしながら、その魅力を皆さんに実際に体感していただきつつ、それを伝えることです。

最後に、いつも私を笑顔にしてくれる生き物たちに感謝します。

ご清聴ありがとうございました。

以上です。

【知事】 ありがとうございます。

ちょっと感想を申し上げます。

先ほどの森の映像というのは、あれは渥美半島の中の映像なんですか。

【藤江】 そうです。渥美半島の大山の麓です。

【知事】 渥美半島、確かに真ん中辺が山地、山になっていますけれども、あんな深い山でしたかね。

【藤江】 ですよ。

【知事】 里山の丘陵地みたいなイメージですけども。

【藤江】 そうなんです。ありがとうございます。あんな魅力的な自然が渥美半島にはあるんです。

【知事】 へえっ。藤江さんは渥美半島のご出身。

【藤江】 そうです。

【知事】 どの辺でございますか。

【藤江】 浦地区です。トヨタ工場の近くです。

【知事】 田原ですね。

【藤江】 はい、田原です。

【知事】 なるほど。わかりました。

また後ほどご発言いただきますので、よろしく願いいたします。

ありがとうございました。

それでは、5人目ということで、フォレストエネルギー新城の大西康史さん、お願いいたします。

【大西】 フォレストエネルギー新城の大西と申します。

私からは、地域の未利用材を活用した、湯谷温泉木質バイオマス熱利用事業についてお話しさせていただきます。少し内容がありますので、やや駆け足になるかと思っておりますけれども、よろしくお願いいたします。

内容ですけども、はじめに、この木質バイオマス熱利用事業の目的と狙いについて、続いて事業実現までの過程について、最後にこれまでの実績についてお話しさせていただきます。

この木質バイオマス熱利用事業ですけども、これまで使われてこなかった未利用間伐材を有効に活用する取組でございます。そして、今回フィールドとさせていただいています湯谷温泉ですけども、35度ぐらいで温泉が出てきていますので、少し加温する必要があるんですね。ですので、その加温の燃料として未利用間伐材を有効に活用する、そして様々なSDGsにつながる、そういった効果を得ようとした取組でございます。

具体的には、ご覧の5つの目的を掲げております。

1つ目といたしましては、今申し上げました未利用材の有効活用と森林整備の促進。そして、先ほど加温と言いましたけれども、従来重油を使っておりましたので、それを置き換えることによる二酸化炭素排出量の削減。雇用の創出。さらにエネルギー代金の域外流出防止。これは、(スライドの) 左下に日本地図がございますけれども、赤いところが地域から特に石油とかを買うために海外にお金が行っているところで、地域にエネルギー事業を作ることによって地域内でエネルギーを回すと、そういったお金を回すといったことでございます。そして森林と温泉の連携。こ

ういったことを目的としております。

そして、他の少なくない同じような条件を有する地域の参考となる成功事例の創出も行っております。(スライドの) 左下に「新城市の83%は森林」と書かせていただいておりますけれども、日本も3分の2が森林でございます。また、右になりますけれども、湯谷温泉が新城にはございませぬけれども、ここに書いてあるとおり、各地に様々な熱利用先がございませぬので、それらの参考になる事例ができるかと、そういった目的で行ってまいりました。

また、ここには載せていませんが、林業を活性化させる、そういったことを目的としてやっております。

続きまして、この事業化までの過程でございます。

ご覧の①②③④ですけれども、まず技術調査でございます。未利用間伐材を使うためにはどんな方法がいいのかということがまず1つ目。続いて、その未利用間伐材はどこで使えばいいのかといったところ。さらに、どこでどういった方法で使えばいいのかというのがわかったところで、それに必要な未利用間伐材が本当に集まるのかというところ。最後に、地域の関係者との協議といったことをさせていただいて、事業化に至りました。

まず1つ目の技術調査でございます。

先に次のスライドをご覧いただきたいと思うんですけれども、木質バイオマスといたしましてはいろんな技術がございます。上側が熱利用といったもので、下側が発電といったものでございます。こちらは雰囲気だけつかんでいただければと思うんですが、スライドを戻しますと、その中で新城の場合は熱利用で、左に囲っている薪、こちらが技術的にも、また供給を足るといふ部分についても、採算面からも、最も妥当と考えさせていただきました。

次に、需要先調査でございます。

次のスライドをご覧いただきたいと思うんですけれども、こちらが木質バイオマスの事業のポイントでございます。下のグラフは、右側のX軸が稼働時間で、縦軸が累積コストになっています。ご覧のとおり、木質バイオマスボイラーというのは、初めにかかる設備費、イニシャルコストは高いですが、木材の値段が安いといったこともあって、苦々しい部分もあるんですが、ランニングコストが安いといったポイントがございます。つきましては、採算面だけを考えれば、いかに稼働していくのか、すなわちマスマリットを得るための規模であったり稼働率を確保することが重要と考えております。

(スライドを) 戻りますけれども、そういった意味合いで、一定以上の規模や稼働率が確保できて、また、当然ですけれどもボイラーが置ける場所、そして更新のタイミングが問題ないところ、そういったところが大事だということで調査をしたところ、湯谷温泉が適地であることがわかりました。

続いて、供給可能量調査です。こちらにつきましては、皆さんの力を合わせれば十分可能であるといったことがわかりました。

なお、この調査と先ほどの需要先調査につきましては、市内約50者を対象にヒアリング等をさせていただきます。こちらでうまくいくといったことがあったところがございます。

こういったことを受けまして、新城市役所と連携して、事業化に向けた取組をやってまいりました。

それと同時にもう一つ大事なのが、地域での合意形成です。

その内容といたしまして、こちらですけれども、平成28年度にワーキンググループを開催させていただきました。平成29年度から、これは現在に至ってやっておりますけれども、新城市薪生産協議会といったものを行わせていただいております。(スライドの)下側に特徴・強みとして書かせていただいておりますけれども、地域で、現場で活躍されている方々にお集まりいただいて議論していつている、これがポイントでございます。すなわち、現場からの多様な実践知ですね、実践経験を得て、どうやって取り組んでいけばいいかを得ることができたということがございます。それによって、例えばそれぞれの役割とか価格とかいったものの合意を得てきたところがございます。そして、こういったものを受けて協議会の有志で弊社のフォレストエネルギー新城を立ち上げまして、事業に至ったところがございます。

最後に、これまでの実績でございます。

まず1つ目といたしましては、当初目的のとおり、未利用間伐材の活用。これは累計ですけれども、2,100m³の未利用間伐材を使ってまいりました。そして、当然ですが、それによって森林整備が促進してまいりました。これによりまして、森林が本来有する多様な機能の活性、貢献ができているかと思えます。

2つ目といたしまして、年間約200tぐらいのCO₂の削減に至っているかと思えます。これにつきましては、このデータは少し古いんですけれども、建て替え前の新城市役所の本庁舎の年間の排出量に相当するぐらいの分を減らすことができっております。

そして次ですけれども、雇用の創出。

さらに、最後になりますけれども、エネルギー代金の域外流出防止といったことができていくかと思えます。

このように、SDGsの達成につながる様々な取組をさせていただくことができているといったところがございます。

以上で私からのお話を終わらせていただきます。

ありがとうございます。

【知事】 ありがとうございます。

大西さんは新城ご出身ですか。

【大西】 私は、もともと出身は京都ですが、地域おこし協力隊としまして京都から来させていただきました。

【知事】 そうですか。このプロフィールを拝見すると、京都で、あと広島県庁に入られ。

【大西】 そうですね、まず就職はそうですね。

【知事】 そのあと、広島、京都、新城でこの再生可能エネルギー事業に加わって、新城の地域おこし協力隊として新城に来て、今この事業をやっているということ。

【大西】 そうでございます。

【知事】 なるほど。それはそれは。この事業がご縁で新城に来たということ。

【大西】 そうですね。来させていただいて、新城のいろいろな課題とかを見る中でこの事業がいいんじゃないかといった話で、こちらに進めさせていただきました。

【知事】 ありがとうございます。

私ども、カーボンニュートラルをやっていく中でいろいろ、再生可能エネルギーを作っていくというのをやっておりますが、その中で、今まきにご説明いただきましたように、木材利用を進めて木を植えていくと。

愛知県は全国で3番目に人工林比率が高いところでありまして。8割が伐期^{ぼっき}を迎えておりますけれども、残念ながらなかなか木材利用がそこまでいかない。そうになると、木も、だんだん樹齢が古くなってくるとCO₂を吸いませるので、できるだけ切って使って、また植えていくと。植えていくときに、またイノシシ、鹿にぼんぼん芽を食べられるので、そこを守りながらやっていくというのが本当に課題かなと思って。

特に木材利用に、これは精力的に取り組まないかんなと思って。ですから、木造の建築物をもっといっぱい作っていかうというふうにかじを切りつつあるというか、切っているところなんですけれども、そういう意味で、いろいろ教えていただければと思いますので、また後ほどご発言をお願いいたします。

ありがとうございます。

それでは、お待たせいたしました。最後、6番目ということで、エシカル・ペネロップ代表の原田さとみさん、お願いいたします。

【原田】 よろしくお願ひいたします。

皆さんのお話、すごく興味深いので、ずっと聞いていたんですけども、私はエシカルということをお皆さんにお伝えできたらと思います。

冒頭にも知事からご説明いただきましたけれども、今年11月に「エシカルあいち宣言」を愛知県が発信してくださったということで、私どもの活動も、これから県と、そして県民と一緒に動

いていけたらと思います。

「世界に優しく、地域に楽しく、自分に美しく」というのが私のテーマであります。「あいちら、エシカル消費」ということで、「～私が変わる、未来を変える、エシカルあいち～」、これが愛知県が作っているポータルサイトのテーマでもあります。私自身の会社もエシカルという名前を使っておりまして、エシカル・ペネロプ株式会社といます。

(スライドの) 下に出ていますのが、フェアトレードの団体の活動を主にしております。

私の大事にしていること、4つあります。

地球環境に負担の少ない、オーガニック素材や天然・自然素材、リサイクル素材を使用していること、サーキュラーエコノミーという新しい言葉とぴったりくるかなと思います。

2つ目が、生産者さんに対して正しい労働条件で公正な賃金で、人や社会への配慮のあるフェアトレードであること。フェアトレードの説明は後ほどいたします。

3つ目、地域に伝わる伝統技術・製法・産業を活かし、継承する努力をすること。

4つ目が、魅力的なデザインで、確かな品質であることも大事にしております。これは、顧客様に対してその商品が2回目買っていただけるためにも、ただ社会貢献、課題解決の商品であるだけでなく、そのものが感性を揺るがすものであるかどうかというのを大事にしています。これは、今日の6名の方々の発表に全部共通しているのではないかなと思います。

そんなエシカルを、知事を真ん中に囲んで、「エシカルあいち宣言」が今年11月に発表されました。エシカルという言葉を用いて活動してきた私としては、すごくうれしい、感謝の日でした。知事から温かくも力強いエシカル宣言がされて、県民とともに、これからの未来にとってエシカルな消費ということが大事ですよ、ということをお話いただきました。本当に宝のような日になりました。

さて、そのエシカルって何ですかということですがけれども、エシカルは英語で、倫理的な、という単語です。形容詞です。それがどんどんイメージを大きく持ってきているわけですし、その中でもエシカル消費ということを消費者庁で推進しています。倫理的な消費とは、ただ安いなど理由で物やサービスを選ぶのではなくて、広い視野で、人や社会、環境などに優しいものなのか、どこからその商品が来て、自分が買った後、社会や環境にどう影響していくのかなということをお考えながらお買い物をしましょうということです。思いやり消費、応援消費とも言われております。

実は、1分でわかるエシカル動画があります。皆さんにこれを見ていただこうと思います。

[動画]

というわけで、1分でわかりましたでしょうか。

エシカル消費とはそういうことでありまして、一言で言うと思いやりであります。お買い物だ

けではなくて、行動全般に使える言葉だと思っています。優しい気持ちで、賢く考えて、「買うものを選択」する。それがエシカル消費ですが、これはとても美意識の高い行動だと私は捉えています。

実は名古屋では、COP10の後、継承するように、白鳥庭園で「エシカルでいしましょ！」というエシカル・デーを設けて、毎年毎年イベントを行ってきました。ここでは、エシカル茶会であったり、エシカルでファッションショーですとか、イベントを繰り返してきました。今はコロナで開催できておりませんが、こういったところで一般の方々になじみやすくエシカルを浸透していく、それが私の役目かなと思っています。

私はモデルからスタートして、タレント活動を進めてきて、ファッションのお店を営んでおりましたので、ファッションからエシカルに入ってきました。パリでエシカル・ファッションショーという展示会が始まりまして、今から15年ぐらい前ですけれども、そこで私はエシカルというものを見つけました。

そのときのエシカル・ファッションのカテゴリーがこの9つでした。

「フェアトレード」、「オーガニック」、「アップサイクル」、「サステイナブル」、「クラフトマンシップ」、「ローカルメイド」、「アニマルフレンドリー」、「ゼロ・ウェイスト」、「ソーシャルプロダクト」。今日の皆さんの全部に当てはまっていると思いませんか。これらをファッションの分野で推進してきました。今でこそアップサイクルはとてよく聞く言葉になりましたけれども、広がってまいりましたので、心強い時代になったかなと思います。

フェアトレードは、アジアやアフリカ、中南米などの女性や小規模農家をはじめとする、社会的、経済的立場の弱い方々にお仕事の機会を作り出すものです。この理念を地域にも落とし込んでいったらどうかなというのが、「おもしろい・おかげさま貿易」でもあります。私たちの身近で困っている人、そしてすぐ手を差し伸べなければならないことがたくさんありますので、海外だけではなくて、私たちのフェアトレードの思いは地元にもつなげていきます。課題解決していく、ファッション、ものづくりがありますよってということですね。それをイベントとして、ファッションショーで皆さんに見ていただいてきております。もう12年になりますけれども、このようにして。

大村知事もファッションショーを見てくださいましたね。トークにも出てくださって、いつもフェアトレードを応援してくださって、今があります。

このように歴史があります。2010年から「世界フェアトレード・デー・なごや」を久屋大通公園のテレビ塔下や名城公園で行っています。イベントを行って、素敵だな、関わってみたいと思う場を作ってきております。現在の「世界フェアトレード・デー・なごや」は、「コーヒー・サミット」と題して、フェアトレードだけではなくて、サステイナブルやオーガニックなコーヒー

出展者が集まり、生産地と思いをつなげています。

2015年に名古屋はフェアトレードタウンになりました。大村知事にもお祝いに駆けつけていただきました。にぎやかにお祝いをしまして、今日本ではフェアトレードタウンは6つあり、名古屋は2番目に認定されました。さらに、日本中ではこれだけの町（約20か所）が目指しています。愛知県の中では、フェアトレードタウンを目指している地域がこんなにあります。町ぐるみでフェアトレードを推進する町のことをフェアトレードタウンと言うんですけども、大府市、刈谷市、豊田市、春日井市などで運動が見られます。これから知事にも応援をしていただきたいなと思っております。エシカルな理念でフェアトレードタウンを推進ということにつながっております。

例えば、フェアトレードタウンに認定されると公共調達が変わります。名古屋市では給食にフェアトレード認定のいりごまが使われておりましたり、環境局の制服にフェアトレード認証コットンを使用していたり、様々な公共調達に広がっていくということがあります。エシカル公共調達にも広がると思います。エシカル宣言をした愛知ですから、これからエシカル調達を文言に加えていただくといいのかなと思います。

といいますのも、調査をしますと、エシカルもSDGsも含めてこの数字は当てはまってくるのかなと思いますけれども、フェアトレードの認知度の調査ですと、全体では32.8%ですが、知名度ですと、10代では8割の方々がフェアトレードを知っている。学校などでフェアトレードって知っていますか、と手を挙げてもらと、年々数がぐんぐん増えてきて、今は、ほとんどの方が手を挙げてくださるような時代になりました。学校の先生方が頑張ってお教えてくださっていることでもありますので、若い方々、学生の方々に浸透しているということは、未来は明るいぞと思います。大人の私たちの方が知らないことが多いので、SDGsやフェアトレードやエシカルに関して教育が進んでいくと思いますので、子供さんたちのその学びの場を大事にしていきたいなと思います。

1月22日にエシカル消費を皆さんにお伝えするイベントがありまして、皆さんのお手元にチラシをお配りしました。消費者庁主催の委託事業で、愛知県の県民生活課の皆さんのご協力を得まして、「エシカル&サステイナブル ファッションショー/トーク」を行います。アップサイクルの販売もあります。未利用素材とかりサイクル素材を使って素敵な商品を作っている出店です。このような形でイベントも行いつつ、市民の方々のエシカル消費を推進していこうということでございます。もしよろしかったら、1月22日、知事お越しく下さい。

以上です。

ありがとうございました。

【知事】 ありがとうございました。

1月22日ですね。ありがとうございます。

原田さんにはフェアトレードを最初からずっと取り組んでいただいて、名古屋という大都市が政令市でいの一歩にフェアトレードシティになったということで、すごいことだなと思っております。

このフェアトレードをベースにしながら、エシカル消費をどんどん進めていくということで、しっかりと取り組んでいきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

また後ほどご発言いただきたいと思っております。ありがとうございます。

一当たり、6人のご参加いただきました皆さんからご発言いただきました。

続きまして、皆様のご意見、ご発言をお聞きいただいた上で、皆様方から補足の意見とか追加の意見とか、また、皆様のご意見をお聞きいただいた上で、どなたかにご質問でも結構でございます。何でも結構でございますので、引き続きご発言いただければと思っております。

それでは、最初の順番で、また久留宮さんから順番にご発言いただけたらと思っておりますので、よろしく願いいたします。

まず、久留宮さん、いかがでございましょうか。

【久留宮】 皆様の活動をお聞きしまして、自分の知らないこともたくさんあったので、いい学びの場となりました。ありがとうございます。

その中で、藤江様にお聞きしたいことがあるんですけども。

ツアーを行っているということで、具体的にどういう年代の方が参加されているのかということと、参加者の方が、地元の方が多いか県外とかからお越しいただくことが多いのかもちょっと気になったので、わかる範囲でいいので教えていただけたらと思っております。

【藤江】 ありがとうございます。

女性が多いです。中にはカップルだったりご夫婦の方もいらっしゃって。ほぼほぼ女性が多いです。一応女性限定としているので。30代、40代、20代から40、50代ぐらいが多いですね。

どういう方が来られているかということ、名古屋とか浜松とか、もちろん地元の方も来てはくださいますけれども、ほぼほぼ、岐阜とか、他の地域から来られる方が多いです。特に関西だったり関東だったりですね。

【久留宮】 ありがとうございます。

結構私たちの団体が、地域の方に向けたものが多かったので、どういうところかなというのが気になりました。

ありがとうございます。

【知事】 よろしいですか。

【久留宮】 ありがとうございます。

【知事】 ありがとうございます。

また引き続きこれからも、コロナでなかなか活動が、制約があって大変だということで、後輩の方がどんどん入ってきていただいても、なかなかフィールドワークができないとつらいところがありましたね。今収まってきましたので、オミクロン株というのが非常に心配ではありますがけれども、そろりそろりと再開をしていただくということで、またよろしく願いいたします。

続きまして、渡会さん、お願いいたします。

【渡会】 牛は穀物を一日に10kg、11kg食べる、お水もたくさん要るし、メタンガスとかCO₂も出すということで。そんな中で、90%以上捨てられている資源があるということで、お店にそういった鹿肉とかジビエを並べられたらいいことかなと思いました。そのあたり、何が必要なんですかね。

【清水】 ご自分で捕られますか。

【渡会】 いや、僕は。

【清水】 捕ってくれる捕獲者と、それを解体する施設が必要ですけども、豊橋の石巻のほうに野生鳥獣解体施設というところがございますので、そちらをご利用いただければ大丈夫だと思います。

【渡会】 仕入れ可能ですか。

【清水】 はい、大丈夫だと。

【渡会】 ありがとうございます。

【清水】 後でご紹介します。

【知事】 ぜひご紹介いただいて、いろいろご連絡いただけたらありがたいなと。

そこはあれですか、鹿とイノシシと両方ですか。

【清水】 イノシシの方が、豚熱で今受入れができない状態になっていますので、豊橋の解体所は鹿のみになっております。

【知事】 ということでございますので、またよろしく願いいたします。

そのほかいかがですか、渡会さん、よろしいですか。

【渡会】 鹿やイノシシ、サルが増えた理由が、二ホンオオカミが絶滅したために、天敵がいなくて増えているということで、増えちゃっているのも人災であるということで。そのあたりを認識した上で、やっぱり我々はちゃんと取り組んでいかなきゃいけないなと思います。

【知事】 オオカミが絶滅したのは明治時代ですよ。ところが、三河山間部の町長さんとか村長さんに聞きますと、前の設楽の町長さんなんかはもう70代ですけども、自分たちが子供のときにイノシシ、鹿はこんなにおらんかったと。何でこんなに増えたんだというのが率直な感想だと言うんですね。

私もそう思いますね。昔こんなにおったかという話だったのが、だんだん人間が山を開発して

農地が増えていって、あと、野生動物と生息域が重なってきたというのがあるのと、野生動物が人間のいろんな食べ物のうまさを知ってしまったから来るという、2つじゃないかと言われていますけれども。とにかくそこは、私はどちらかという共存共栄というはあるんじゃないかと思いますが、増え過ぎて、農作物を全部ダメにするというのは困りますので、そこはやはりしっかりと取り組んでいかないかなと思います。

【渡会】 知事さんが先ほど林業を、何とか建材に使っていきたいということでしたけれども、今渥美半島も、アサリが本当に取れなくなってしまっ。やっぱりそれはちょっと山の荒廃とかも原因としてあるのかなと思っていますので、使わないスギやヒノキであれば早めに県としては使って、落葉樹とか照葉樹の、どんぐりがいっぱい落ちる森に戻してあげることで、鹿やイノシシたちも暮らしやすくなるのかなと思いますので、よろしくお願いします。

【知事】 ありがとうございます。

続きまして、清水さん、ご発言があればよろしくお願いします。

【清水】 皆様のお話お聞かせいただいて、どうもありがとうございました。大変勉強になりました。

大西さん、よろしいですか。

山に入っていて思うのが、間伐材、未利用なものがすごく多いと、切り倒しのままのものが多いじゃないですか。これを、新城だけではなくて、愛知県全域に広がっていくような感じにはならないですかね。

【大西】 おっしゃられたとおり、先ほど知事もおっしゃられたとおり、そういったものを有効に使っていくのがまさにこれから目指すべき方向だと思います。

私のスライドの初めのほうに、実際に各地で同じような条件があるといったスライドがあったと思うんです。私はあくまでもバイオマスとしての利用ではありますけれども、そういう視点だけでもちゃんと調査をして探れば、使える場所はきっとあると思うんですね。

先ほど知事からご質問いただいたとおり、私も新城に来てから取組を始めたわけですが、本当にどこでできるかって正直全くわからないところからスタートいたしました。

プレゼンで書かせていただいたとおり、結局全部で50か所ぐらいになったんですけども、新城市内でも調査をしたら、ここではいけるんじゃないかなというのが見えてきたので、やっぱり調べないとわからない。ですけれども、調べればきっと見つかると思いますので、可能性としてはすごくあると思いますので、ぜひ一緒にいろいろ連携しながら広げていければいいなと思います。

【清水】 ありがとうございます。

その切り倒した木とかを運び出すことによって、山に人が入るようになるじゃないですか。そ

うするとやはり昔の山の環境に少し近づくんですね。山に人が入る、手を入れるということで、動物とのすみ分けができるようになる。獣害が減ることにもなると思いますので、ぜひご協力をお願いいたします。

【知事】 ありがとうございます。

よろしいですか。

【清水】 はい。

【知事】 それでは、続きまして、藤江さん、よろしくお願いいたします。

【藤江】 皆さんいろいろお話聞かせていただき、ありがとうございます。

先ほど大村知事がおっしゃっていたように、私も共存共栄。鳥獣害もあると思いますけれども、できればそちらのほうが私的には、私の個人的な意見ですけれども、いいなと思います。

私の話になってしまうんですけれども、先ほど、足元の宇宙って私が言ったのを覚えていませんか皆さん。それについて多分、誰かしら、「何？足元の宇宙？」って思われる方もいらっしゃるかと思いますので、ちょっと説明させていただきます。

何回も重複してしまいますけれども、初めに目を引くきっかけの一つが、屋久島というキーワードですが、私が、「何？ここ屋久島じゃん」と感動したのが始まりなんです、「渥美半島の自然コース」と言ってもインパクトがありません。「田原の屋久島コース」だと、ん？何？田原の屋久島？となりませんか。ですが、屋久島みたいだから来てと言いたいわけではありません。ただのきっかけにすぎません。私がガイドを通して伝えたいのは、足元の宇宙です。

私が屋久島の白谷雲水峡というところを案内しているときに、お客さんが「ここは自然がたくさんあっていいですね」と言いました。私は「そうですね」と言いましたが、何か違和感がありました。その方は都会に住んでいる方だったと思います。今ならその方に言いたい、「あなたが住んでいるところにも、屋久島と同じくらい素晴らしい自然はありますよ」と。多分「都会に住んでいるのに」って返ってきそうですね。

家や、家の庭や公園、石垣や垣根の根本、観葉植物などの根本、あぜ道、アスファルトの隙間に生えている雑草と呼ばれている植物たち、私たちの足元には素晴らしい自然、宇宙が広がっています。

ちなみに、遠出が悪いと言っているわけではありません。身近なところにも、身近なところでも素晴らしい自然を感じることができるということです。

以上です。

【知事】 ありがとうございます。

また引き続きよろしくお願いいたします。

私も、渥美半島にこんな風景というか、あれがあるとは知りませんでした。またぜひそういう、

きらっと光る渥美半島の良さを大いに多くの人に見せていただくように、よろしく願いいたします。

続きまして、大西さん、またご発言をお願いいたします。

【大西】 ありがとうございます。

皆さんいろいろ、質問という感じでしていただいていますけれども、私からは、ちょっとだけ言い足りなかったというか、補足させていただきたいこととお話したいと思います。2つあります。

1つは、私どもの事業をお話させていただきましたけれども、この事業を作り上げるに当たって、本当にすごくたくさん、いろいろな方々のお力添えがあってできたというのをすごく感じています。ユーチューブを通じてもご覧いただいていると思うので、こういった場で言うのが正しいかわかりませんが、改めて皆様方に御礼申し上げたいというのが1点目でございます。

2点目といたしましては、この事業を進めてきたところの背景について、今回のSDGsも絡めて少し話をしたいんですけれども、こういった取組、地域の未利用材を使ったバイオマスの取組をやってきた背景には、今、実は、木質バイオマスといっても、本当に地域のためになっているかどうか結構怪しい、そういったバイオマスが広がっているというのが正直でございます。

多くは海外からたくさん物を輸入してやっていると。そうすると、当然運んでいるときにもCO₂が出ますし、現地でもいろいろ問題があると。そういうふうに指摘されています。

今のは一つの例えみたいな部分もあるんですが、それと同じような視点で、今日お集まりの皆様はすごく素敵な取組で素晴らしいと思うんですが、SDGsについてもやっぱり同じようなことが一部あるのかなと感じているんですね。すごく素晴らしい取組もあれば、SDGsを掲げながらもちょっと怪しいところもきっとあると思うんです。一方で、私どもの自らの至らないところを発言しているようで心苦しいですけれども、なかなかまだ発信が十分できていないけれども、そうやって頑張っている取組がきっとあると思うので、そういったものをどんどん発信していけるような。

もしかしたら原田さんとか、そういったのがお得意かなという感じもしますし、県の方でももちろんそういったことはすごくされていると思うので、そういった情報をうまく交通整理して世の中に知らしめていくことによって、きっとこれからそれを真似^{まね}してSDGsをさらに達成していこうといった機運にもつながるかなと思いますので、せっかくこういった場で集まった皆様でもございますし、そういったことにつながっていければいいかなと思いましたが、補足といいますか、感想といいますか、そういった形で私からの発言とさせていただきます。

ありがとうございました。

【知事】 ありがとうございました。

またいろいろ、今日こうしてご一緒していただきました皆さんと個別にご連絡していただいて、いろんな連携ができたり、ネットワークができたらいいかなと思いますので、よろしく願いいたします。

ありがとうございます。

それでは、最後に原田さん、またご発言をお願いします。

【原田】 皆さんのお話を聞かせていただきますと、まさにパートナーシップですよね。いかに異業種、異分野がコラボレーションしていくかが、SDGsの目標達成の最大の鍵かなと皆さん感じておられると思います。

どうしても専門分野の中で閉じ籠もってしまうことが多い。特に私の専門であるファッションはその世界ですね。関連する企業が何を作っているか、どんな労働環境かを知らずに、安さ優先で選んでしまっている。誰も悪くないけれども、その分断が害を生み出しています。消費者は買うという大切な一票を投じるときに、何を買うかで途上国の貧困に加担している可能性もある。私たちが何を買って、暮らしの中で何を取り入れて、どうそれを使っていくかということを考える。そこにはやっぱり、「知る」というところからしかスタートはないので。

愛知県の県民生活課でエシカル消費ということをしっかり皆さんに知っていただく運動していることはすごいことだと思います。今までは市民が草の根でエシカルという言葉を使って広げてきて、これが公式となって、県の皆さんがともにエシカル消費を推進していただくということとはすごく大きな力を持ちます。

さらには、そこに事業者と消費者という立場もあり、皆さんがエシカル事業者であるなどと思います。未利用素材を使うであったり、環境にいいものを使うであったり、バイオマスであったり。事業者に対してエシカル基準というのがあるので、ちょっと見ていただいてもいいですか。

日本エシカル推進協議会というのがありまして、私は理事をしておりますけれども、消費者がエシカルを取り入れるのはすごく良いです。エコバッグからとか、地産地消のものを選ぶとかでも良いですが、事業者に対してエシカル基準を作っております。

エシカルとうたう以上はこうであってほしいというのがありまして、今日多分皆さん全部関係していると思います。

1から8までの基準を作っておりまして、「①自然環境を守っている」かどうか。皆さんそういう事業だから最初から守られている。人権ですよ、労働環境とか働くときにどう「②人権を尊重している」か。「③消費者を尊重している」か。消費者、物を使う側のことを思いやっているか。「④動物の福祉・権利を守っている」か。多分今日、動物を使っている方、動物の命をいただくということで、まさにこれが当てはまっています。「⑤製品・サービスの情報開示をしている」。このものがどこでどうやってできたか、トレーサビリティされているかどうか。「⑥事業を行っている地

域社会に配慮・貢献している」。地域と関わっている。自分の企業だけが営利を作るとかではなくて、地域にどれだけコラボレーションできているか、地域の課題を一緒にどれだけ解決しているかということが入ってきます。「⑦適正な経営を行っている」。当たり前のことですが、これが危ういのが現状ですよね。「⑧サプライヤーやステークホルダーと積極的に協働している」。まさに今日この場を作っていただいていることはこれだなと思います。ステークホルダーでいろんな分野の人たちの場を作っていただき、知事ありがとうございます。

以上です。

【知事】 ありがとうございます。

フェアトレードを進めてエシカル消費と、本当に先頭に立って頑張っていただきまして、心から感謝申し上げます。これからも何とぞよろしく願いいたします。

それでは、2巡目、また一当たり皆様からご意見をいただきました。さらに補足でという方はおられますか。よろしいですか。

ありがとうございます。

ほぼ予定の時間となりましたので、そろそろ締めさせていただきます、私から最後に一言総括して、またご挨拶させていただければと思います。

本日は、活発な意見交換をいただきまして誠にありがとうございます。皆様方それぞれの貴重なお話を大変興味深く聞かせていただきました。ありがとうございます。本日皆様からお伺いしたお話の内容は、今後、県の様々な施策を進めていく上でしっかりと活かさせていただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

愛知県では今後とも、2030年のあるべき姿であります「SDGs未来都市」として、1つは、経済面、やはり経済でしっかりと頑張って日本を支え、引っ張っていくということ、そしてまた社会面では、人が輝き、また女性や高齢者、障害のある方など全ての人が、これは外国人材も含めてですが、全ての人が活躍する愛知を作っていきたいと思っております。そして環境面ではありますが、「県民みんなで未来へつなぐ『環境首都あいち』」というのをしっかりと作っていきたいと思っております。

なお、先ほど渡会さんからちょっとお話のありましたアサリなんかね、自然というのは非常に微妙なバランスで成り立っているなと思ひましてね。10年前まで愛知県で、三河湾で2万tぐらいアサリが採れて、だいたい日本のアサリ生産の7割強は、この三河湾で採れていたんですけども、10分の1以下になりまして、ちょっと回復してきましたけれども。一生懸命やっているんですけども、なかなか回復しない。これは別に私どもの三河湾、伊勢湾だけじゃなくて、瀬戸内海とか有明海とか、日本中の海、内海における課題ですが、要は、下水道が普及して海がきれいになり過ぎて栄養塩が不足すると。なので、アサリもいなくなったり、ノリも色落ちするしというこ

となので。一旦そうなると、そう簡単に戻ってこないんですね。あと、温暖化なので、北海道でもうサケが取れないとか、その代わりブリが取れるとか、いろんな微妙なとか絶妙なバランスで成り立っているんだなというのがよくわかりますので、そこを、一旦そのバランスが崩れると、なかなか戻すのが容易でないということなんだろうなと思います。なので、そうした点を、環境面、皆さんと一緒にしっかりと取り組んでいかなければならないと思います。

そうした3つの面をしっかりと兼ね備え、活力と持続力を併せ持った大都市圏を目指しまして、SDGsの達成にしっかりと努力していきたいと思っております。

本日お集り、ご参加いただきました皆様には、今後ますますご活躍いただきまして、持続可能な社会の実現に向けて引き続きご支援・ご協力いただきますように、何とぞよろしくお願い申し上げます。

なお、最後にまた一言ですが、愛知県は、来年2022年が愛知県政150周年ということになります。明治4年（1871年）に廃藩置県がありまして、1年半いろいろ、合従連衡といいますか、繰り返しながら、明治5年（1872年）の11月27日に、名古屋県が今の愛知県でありましたが、そこと、三河と知多が額田県となっていたんですけれども、それを併合して今の愛知県という形になって、ちょうど150年ということでございます。

本日は、お集まりいただきました皆様にその記念グッズを、「愛つなぐ。知ひらく。」ということで、本当にささやかなものでございますけれども、お持ち帰りいただければと思っております。

ちなみに、このかたつむりと鳥のロゴマークは、私ども来年秋にはジブリパークをオープンいたします。今一生懸命建設中で、最終局面に来ておりますが、この字も、かたつむりで「いこまいまい」、もう一つ、「あいちゅん」という鳥ですが、これもスタジオジブリの鈴木敏夫プロデューサーにデザインして描いていただきましたものでございます。また来年、そう派手派手しいイベントということではありませんが、やはり150年ということでしっかりと愛知を盛り上げていきたいと。

こちらが鳥ですね、あいちゅんという名前で、こちらがかたつむりでいこまいまいと。この辺の言葉で、いこまいまいということでございますが、またご覧いただければと思っております。

本日は、限られた時間ではありましたが、大変有意義な会となりました。本日ご参加いただきました皆様に改めて感謝申し上げます、私の締めくくりのご挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。